

と改善を、今後も続けていきたいと思います。

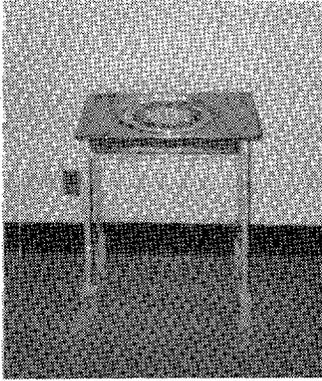


写真1

19) 強度の変形あるDMP患児のベッドサイドテーブルの工夫

国立岩木療養所

七戸千恵 倉内トシ 千葉喜八郎
江利山久子 長谷川悦子 鎌田玲子
山田静子 長谷川輝子 高柳恵美子

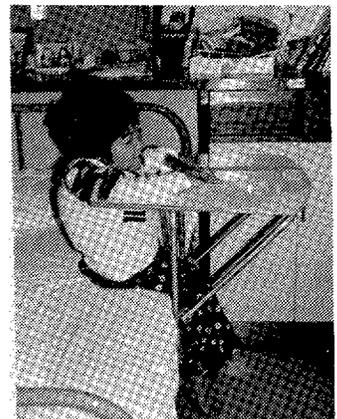
<研究目的>

障害度が進み、ベッド上で坐位姿勢を保持できない強度の変形のある患児が、余儀なくベッド上の生活をし、快方にむかって車椅子の生活にもどる迄には、筋力並びに心肺機能の低下をみる事が度々あります。

そこでこれ等を予防するために、ベッド上で坐位姿勢を保持できる様なベッドサイドテーブルを作り報告しました。

<成果として>

1. ベッド上では坐位姿勢はむづかしいが、テーブルの胸の切り込みに、もたれるように体をささえて腰かけることにより坐位姿勢を保つ事ができるので、心肺機能の低下を予防できる。
2. テーブルに上肢をのせる事により、手指の行動範囲が広くなり、筋力低下も予防できる。



3. 脚部を折畳む事ができるので収納場所をとらない。
等です。

そこで今年度はこのベッドサイドテーブルに回転お膳を埋めこみ使用しました。

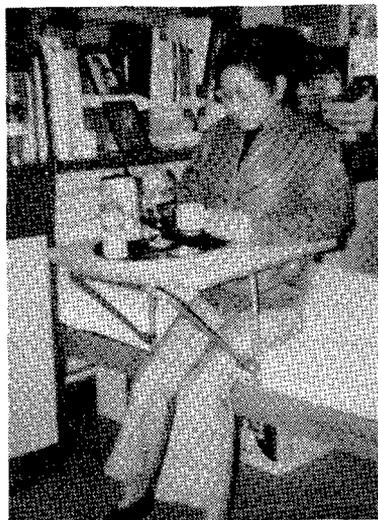
< 成 果 >

1. 今迄自力で食物を自由に選べなかった患児でも、指先の少しの力でお膳を回転させて、好みの食物をたべさせてもらう事ができます。

< 終 り に >

このテーブルを作る事により、今迄の単調なベッド生活から楽しみのある生活に少しでも近づける事ができたのではないかと思います。

今後も患児の成長期の観察を密にし、日常生活の自助具の工夫と改良に努力したいと思います。



20) 各種機械器具開発について

国立療養所南九州病院

中島 洋明 新居 正信 吉永 京子
川平 稔 (鹿児島大学第三内科)

< ヘルメット型ヘッドサポーター >

方 法

大きさは横 18.5cm、タテ 20.0cm、高さ 16.5cm、厚さ 0.7cm、重量は約 310g の写真 1 に示したもので、材質は義足の内張りによく利用される p-ライトスポンジ 4mm 板に軟ポリピレン板 4mm を外板に使い、この軟ポリピレンの内側に p-ライトスポンジを縫い合せた構造で、額、耳介部、後頭部にスポンジを張り合わせてある。頭頂部には、汗抜き用の円窓をつけた。(写真 1 参照)

結 語

従来のヘッドサポーターでは、しばしば転倒により頭頂部を打撲するものがあり、側面の一部を防御する効果しかなかったため、挫傷を防げなかった。このヘルメット型では、頭がすっぽりはいて耳介も含めて広範囲の防御が可能となった。

↓ 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用 ↓
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

<研究目的>

障害度が進み、ベッド上で坐位姿勢を保持できない強度の変形のある患児が、
余儀なくベッド上の生活
をし、快方にむかって車椅子の生活にもどる迄には、筋力並びに心肺機能の低下をみる事が度々あります。

そこでこれ等を予防するために、ベッド上で坐位姿勢を保持できる様なベッドサイドテーブルを作り報告しました。